

平成 30 年度 学校経営計画

広島県立広島皆実高等学校

全日制課程

普通科・衛生看護科・体育科

平成 30 年度学校経営計画

平成 29 年度～平成 31 年度

校番	1	学校名	広島皆実高等学校	校長氏名	隠澤 浩雄	Ⓐ・定・通	Ⓑ・分
----	---	-----	----------	------	-------	-------	-----

1 ミッション（地域社会における自校の使命）

旧制広島県女以来の歴史と伝統を受け継ぎ、知・徳・体の調和がとれ、社会に貢献する有為な人材を育てる。

2 ビジョン

- (1) 文武の両面で生徒を鍛え、グローバル社会で活躍できる人材（自ら学ぶ力、チャレンジする力、豊かな人間性と社会性を持つ生徒）が育っている。
- (2) 体育科：全国に通用する運動部の育成を行い、アスリートとして活躍できる人材や将来スポーツ活動の指導者となれる人材が育っている。
- (3) 看護科：高度な看護技術、崇高な使命感、ゆるぎない倫理観を持った看護師が育っている。

3 環境分析

(1) 現状

①自ら学ぶ力

家庭学習時間	H24	H25	H26	H27	H28	H29
1年生	117分	132分	124分	145分	118分	118分
2年生	97分	125分	144分	150分	150分	97分
3年生	268分	233分	196分	239分	277分	249分

②豊かな人間性と社会性

社会貢献活動	H24	H25	H26	H27	H28	H29
参加生徒数	118人	約700人(70%)	(75%)	(76%)	(80%)	(76%)

自転車事故発生件数	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	12件	60件	59件	52件	30件	39件

※社会貢献活動のH24は衛生看護科生徒による小学生対象の出前授業のみ計上

③学力の定着

センター試験 全国平均点以上得点者数	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
人数	50人	52人	35人	44人	66人	74人	56人

※5-6型：800点満点

④進路希望の実現、チャレンジする力

国公立大学合格者数	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
現役国公立合格者数	68人	85人	66人	65人	92人	94人	71人
現役国公立合格者数/卒業生	28%	36%	33%	27%	38%	40%	36%

※入試年度で記載

〔衛生看護科・専攻科〕

国家資格取得者	H16～H29年度
生徒に対する割合	100%

〔体育科〕

体育科の専門を生かした進路実現	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
人数	13人	16人	26人	20人	15人	16人	23人

※体育、健康関係の学部等に進学した人数を入試年度で記載

⑤部活動の成果

インターハイ・全国総文祭等全国大会出場者	H24	H25	H26	H27	H28	H29
出場者数	33	63	155	149	187	155

平成26年度から全国大会出場者数

部活動加入者	H24	H25	H26	H27	H28	H29
運動部活動人数 (割合)	514人(56.4%)	531人(57.4%)	573人(59.9%)	538人(69%)	542人(62%)	526人(64%)
文化部活動人数 (割合)	191人(20.9%)	191人(20.6%)	200人(20.9%)	239人(26%)	213人(24%)	208人(24%)
部活動全体 (割合)	705人(77.3%)	722人(78.1%)	773人(80.8%)	777人(85%)	755人(86%)	734人(84%)

(2) 現状の分析

H30 の進路指導部

定期的な学習時間調査、定期考査、模擬試験結果から生徒の学習状況の実態を把握し、学年主任・教科主任会議・クラス担任・部活動顧問を通して個々の生徒に応じた丁寧な指導をしてきた。しかし、学習の質を高めたり、自律的な学習者育成には至っていない現状がある。進路希望の実現については、体育科から5名が国立大学に合格し、難関国立大学に5名が合格した。生徒の学部学科志望に合わせ、合格可能性の高い大学を提案してきたが、学校経営計画の県内国公立大学(3大学)合格者の目標値を達成できなかった。低学年から進路目標を意識させ、学校全体で細やかな指導を継続して生徒の進路希望の実現をより確かなものにしていきたい。

H30 の衛生看護科・専攻科

看護師国家試験については、新出題基準に対応した指導を計画的に行い、100%合格した。高校入学から専攻科修了まで、段階的に、また個別の課題に対応し、生徒の主体的な学習を支援できるよう指導をしてきた結果であると考えられる。今後も、引き続き、継続的に組織的な指導を行うことが求められる。

H30 の体育科

体育科については、専門を生かした進路実現をした生徒は昨年度より増加した。自らの進路についてしっかり考え、進路選択をした結果である。体育科での学習や部活動を通して身に付けたことが進路を考えていく上で大いに参考となっている。今後も、体育科の教育内容を充実させ、進路希望を実現させていくことが求められる。

H30 の特活

全国大会レベルの部活動について、昨年度の地元インターハイより出場者数は減少したものの、女子柔道の-57kg級と-78kg級で5位入賞、男子バスケットボール部はベスト8、女子バスケットボール部はベスト16であった。また、冬の全国大会にも多くの部活動が出場し、3学年にとって最後の大会で有終の美を飾ることができた。豊かな人間性や社会性の育成については、部活動、衛生看護科による清掃活動に加え、生徒による自発的な清掃活動があった。また、交通安全協会によるマナーアップキャンペーン、NGO団体(あしなが育英会)による街頭募金、広島県内の中高生らが核兵器廃絶を求めて署名を呼びかける「核廃絶!ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」に全学年から生徒が参加した。皆実祭での売上金を、ユニセフと北九州北部豪雨災害支援に寄付した。

H30 の生徒指導

自転車事故が多数発生している。ルール・マナーを遵守すること、自他の命を守ることにについて、継続的な指導をしていく必要がある。また、携帯電話・スマートフォンやインターネットの利用の在り方についても、実態を把握し指導をしていく必要がある。

H30 の総務

情報発信については、皆実祭・運動会への保護者等の来場者数は昨年度とほぼ同数であった。オープンスクール、学校説明会等への参加者数は、同一日に他校も開催しているにもかかわらず、目標値を大きく上回った。ホームページについては、年間を通して未更新の箇所がほぼなくなり、積極的な情報発信は今後も進めていく。本校へ入学を希望する生徒の出身中学校数、入学者選抜における志願者数などから、本校教育への期待が非常に高いことがわかる。そのような期待に応えることができる教育活動をさらに充実させていかなければならない。

(3) 戦略の決定

今後、次のことに重点的に取り組むこととし、目標を設定する。また行動計画を策定と業務改善を通して、教職員、生徒が「チーム MINAMI」として一丸となり、目標の達成に向けて取り組んでいく。

H30 の進路指導部

クラスの教科・科目ごとの学習時間の傾向、学力との相関、模擬試験結果等について引き続き分析し、授業において具体的な学習内容・方法を示す。さらに学年主任・教科担当者・クラス担任・部活動顧問を通してきめ細かい丁寧な指導を継続する。また、低学年から生徒自身が自ら対策を立て計画的に学習するよう指導することで、意識と実力の両方を伸ばすよう指導していく。ポストセンター試験世代を迎え、学びの変革を継続する。

H30 の特活

全国大会レベルの部活動に関しては、夏の大会・冬の大会ともに競技成績も向上している。今後もより一層の努力をすることにより、生徒が主役として輝く部活動運営をし、さらにレベルアップを目指し、「Team MINAMI」としての飛躍につなげたい。

豊かな人間性や社会性の育成については、これまでに引き続き、自主的な社会貢献活動を基本とする取り組みを継続的に行うとともに、広い視野を持って取り組む姿勢を育て、将来的にも社会貢献活動に携わっていこうとする人間性を育てていく。昨年度に比べ社会貢献活動の参加者数が下がったが、これはインターハイや全国総合文化祭の役員参加がなくなったためであり、その他の貢献活動の参加者は増えており、更に社会とつながることができる多様な場の紹介をし、参加にあたっては課題解決が自主的にできるような支援を行っていく。

H30 の衛生看護科・専攻科

地域に信頼される使命感、倫理観を持った看護職者を育成するため、引き続き学年主任、クラス担任、教科担当者などと生徒の状況を共有し、組織的に丁寧に指導をしていく。また、生徒が主体的に学習する姿勢を身に付けることができるよう指導方法の工夫をする。

H30 の体育科 体育科においては、進路希望実現の評価指標を検討するとともに、様々な活動を通して、思考力・判断力・行動力を身に付けながら学力の向上を図り、夢を実現していく。「文武両道」を貫き、自らの進路希望を実現できる学力、体力、競技力を身に付けさせるよう指導していく。
H30 の総務 ホームページの各箇所について担当分掌を決め、複数の分掌等にまだがるものについても適確に更新できる体制をつくる。より多くの保護者等に学校に来てもらえるような環境整備に努める。
H30 教務 総合的な学習の時間・行事・授業において、考え・基礎知識→つながり→応用・ひろがりを意識したカリキュラムづくりを進める。
H30 の生徒指導 ・自転車事故（単独事故，自転車・バイク・車）の減少に努めるとともに、ルール・マナーを遵守すること，自他の命を守ることにについて，継続的な指導をしていく必要がある。 ・生徒会で「携帯電話・スマートフォンについての3原則」を作成し，昨年度末にアンケートにおいて，実態を把握して，改めて学習の場から切り離し，家庭学習の充実と使用マナーの遵守に努める。

4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値		目標値		担当部
		H28	H29	H29	H30	
① 知・徳・体の基礎・基本を身に付け、文武両面で力を発揮することができる生徒を育てる。						
生徒の学力・技能向上（学びの変革にかかる取組の推進）	生徒アンケート「この授業では学習のねらいに沿って求められている思考力を発揮する場がありますか」に肯定的に回答している生徒の割合	新規	85.1%	80%	85%	教務
家庭学習時間の確保	1日の家庭学習時間（分）	1年 118 2年 150 3年 277	1年 118 2年 97 3年 249	1年 130 2年 160 3年 240	1年 125 2年 125 3年 240	学年会
全国大会レベルの部活動	全国大会出場生徒数	187	154	120人以上	120人以上	特別
豊かな人間性や社会性の育成	社会貢献への参加生徒割合	80%	76%	90%	80%	活動
② 高い志と確かな目標を持ち、進路希望を実現していける生徒を育てる。						
「学習意欲の向上」（学びの変革にかかる取組の推進）	生徒アンケート「この授業はもっと学習したくなるような興味関心がわきますか？」に肯定的に回答している生徒の割合	新規	79.2%	80%	85%	教務
希望する大学への進学	難関中堅国公立大学（旧帝大・医歯薬学部・東京近郊・大阪府・京都府及び筑波大・神戸大・岡山大）及び難関私大（早慶・明治・青山学院・立教・中央・東京理大・関関同立）合格者数	48人 (20%)	36人 (18%)	30人 (13%)	30人 (15%)	進路指導
	地元国公立3大学合格者数	31人 (13%)	20人 (10%)	30人 (15%)	26人 (13%)	
〔衛生看護科・専攻科〕 看護者として希望する進路実現	就職先（進学含）内定率	100%	100%	100%	100%	看護
	看護師国家試験の合格率	100%	100%	100%	100%	看護
〔体育科〕 専門を生かした進路実現	教科・競技を生かした進学割合／ 専門分野への進学者数	67%／ 16人	67% 23人	75%／ 半数以上	75%／ 半数以上	体育

③ 地域から信頼される学校となる。						
「安全・安心・信頼される学校」(広島県教育に関する大綱にかかる取組の推進)	生徒・保護者アンケート「皆実高校は安心して勉強や部活動に打ち込み、より良い人間関係の中で生活できる学校づくりを進めている」に肯定的に回答している生徒・保護者の割合	98%	95%	100%	95%	保健 生徒 指導
積極的な情報発信	1年以内の更新項目割合	95%	95%	95%	95%	総務
入学希望者の増加	オープンスクール、学校説明会等参加者数	1600人	1828人	1500人以上	1500人以上	
【業務改善】 生徒と向き合う時間を確保して、教職員と生徒が「チーム MINAMI」として一丸となる。	授業、授業準備・教材研究、部活動、個別指導、週案作成が、全業務時間の中で占める割合が高いと感じる教員の割合。	72.4%	75.5%	新規	80.0%	管理職

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 知・徳・体の基礎・基本を身に付け、文武両面で力を発揮することができる生徒を育てる。			
生徒の学力・技能向上「学びの変革」にかかる取組の推進	<p>「探究」プロジェクトチーム、教科主任会議を中心に次の取組を行う。</p> <p>①コンピテンシーを明確にしたアクティブラーニングの取組についての教員相互の授業観察を充実させるなど、授業力向上の取組を進める。</p> <p>②中間・期末試験において、大学入試問題等の分析等も踏まえ、作成した思考力問題の分析を行うなど、作問力向上の取組を進める。</p> <p>③各科目のいくつかの単元等において作成したルーブリックの分析を行うなど、評価力向上の取組を行う。</p>	<p>「探究」プロジェクトチーム、教科主任会議を中心に次の取組を行う。</p> <p>①コンピテンシーを明確にしたアクティブラーニングの取組についての研修を充実させるなど、授業力向上の取組を進める。</p> <p>②中間・期末試験において、大学入学希望者学力評価テスト、各大学個別の独自入試問題等の分析等も踏まえ、作成した思考力問題の分析を行うなど、作問力向上の取組を進める。</p> <p>③すべての科目の単元等において作成したルーブリックの分析を行うなど、評価力向上の取組を行う。</p>	教務 「探究」 プロジェクト チーム
家庭学習時間の確保	<p>①1学期に学習方法セミナーを行い、学習時間増加の動機付けを行う。</p> <p>②部活動顧問からの働きかけを強化する。 これらにより、進路実績がよかった平成22年度入学生の実績(1年107分 2年157分 3年268分)を教員・生徒が常に意識する。</p> <p>①学習時間が目標を下回っている生徒に対して、学年指導・担任指導・学年主任指導と指導体制を作る。</p> <p>②担任と教科担当との連携を常に行う。</p> <p>③定期考査の範囲を2週間前に提示し、計画的に学習させる。</p> <p>④新入生については、学習時間を確保するための方策について、具体的な例を示し指導する。教科担当者とも連携を図り、予習-授業-復習を徹底させるための方策を講じる。</p>	<p>①1・2年生の英数国中心の基礎学向上計画に、具体的な数値目標を取り入れて、生徒に時間増のための情報提供・注意喚起を行う。</p> <p>②特に1年生については、従来のIからV期に加えて入学直後の調査を行い、時間数増加の方策を立てる。</p> <p>①家庭学習時間調査のより効果的な活用方法を検討・実施する。特に、生徒が調査に十分取り組んでいるか検討し、不十分な生徒に対して担任及び学年主任が協力し趣旨を理解させ取り組ませる。</p> <p>②担任が個別面談を通して家庭学習時間が少ない原因を把握し、改善に向けての具体策を示す。</p> <p>③自律的な学習の習慣を確立するよう、家庭学習の時間と質を振り返る指導を行う。</p>	教務 学年会
全国大会レベルの部活動	<p>①各顧問が部員に対し、常に競技力・技能等の向上を意識させ、全国を目標とし、指導者とのゆるぎない信頼関係を確立させ、自律した活動を行えることを目指す。</p> <p>②強化クラブや、継続的に全国大会への出場を果たしているクラブを中心に、全国大会に出場する生徒をこれまで以上に増加させるよう活性化を図る。(過去最高を目指す)</p>	<p>①各所で大会出場・出品に際し、その結果の分析を行い、全国レベルに達する指導・部活動運営となるよう工夫改善する。</p> <p>②インターハイ及び全国総合文化祭出場者だけでなく、全国へ繋がるあらゆる大会で出場者数が常に昨年度以上になることを教員・生徒の目標とする。(常に過去最高を目指す)</p>	特別活動

	<p>①全国の強豪校との練習を通して、生徒の意識レベルの向上と指導者の情報交換を行う。</p> <p>②指導者講習会に積極的に参加して、理論に基づいて多様な生徒の力を引き出すことができるような力を身に付ける。</p>	<p>①全国の強豪校との練習を通して、生徒の意識レベルの向上と指導者の情報交換を行う。</p> <p>②指導者講習会に積極的に参加して、理論に基づいて多様な生徒の力を引き出すことができるような力を身に付ける。</p>	体育科
豊かな人間性や社会性の育成	<p>①社会奉仕活動の一環として、募金活動や清掃活動、ボランティア活動などに参加し、積極的に社会に奉仕する意欲と態度を育成する。</p> <p>②交通安全運動や看護科出前授業、小学生対象サッカー教室等を実施するとともに、更に校外での奉仕活動に積極的に参加し、よりよい社会づくりに主体的に参画する意欲と態度を育成する。</p>	<p>①生徒の意欲と態度を育成する上で効果的となるよう、活動の内容、時期・回数等について検討し改善する。</p> <p>②本校での諸活動と地域のニーズが合致するような、連携可能な企画を発案し、試行的に実施する。</p> <p>③他校の実践に学び、本校で実施できる内容については積極的に取り入れる。</p>	特別活動
	<p>①公共交通機関内、及び自転車登校中のマナーについて、風紀委員会を中心に各種の啓発活動を行う。</p> <p>②PTAや関係機関と連携し、交通マナーを高めることで、本校に対する地域からの信頼を維持するとともに、生徒の自身の交通安全に対する意識を高める。</p>	<p>①委員会活動、ホームルーム活動、授業、部活動等における活動を通して、交通マナー遵守、安全確保の行動について、生徒自身が自律的に行動するよう指導する。</p>	生徒指導

2 高い志と確かな目標を持ち、進路希望を実現していける生徒を育てる。

「学びの変革」にかかる取組の推進	<p>①毎時の授業において、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることができるよう、めあてと振り返りがつながる授業づくりを進める。</p> <p>②総合的な学習の時間・行事・授業において、考え・基礎知識→つながり→応用・ひろがりを意識したカリキュラムづくりを進める。</p>	<p>①授業において、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に入れるなど、生徒の主体的に学ぶ態度を幅広く取組を進める。</p> <p>②総合的な学習の時間・行事・授業において、知識・技能を活用する学習活動の充実を図るなど、生徒の学びの質を高める取組を進める。</p>	教務「探究」プロジェクトチーム
希望する大学への進学	<p>①センター試験で安定的な得点ができる学力、学習方法を明確にする。</p> <p>②進路指導部、学年会、各教科、部活動顧問が連携し、学習と部活動を両立させる指導を行う。</p> <p>③進路検討会議と面談・個別指導を接続させる。(チューター制を3年1学期から実施する。)</p> <p>④1・2年生の長期休暇中の指導方針を各教科で検討し、補習等を実施する。</p> <p>⑤難関大広大セミナー(3年)を実施する。</p> <p>⑥大学模擬授業、職業人からの講義などを実施するとともに、修学旅行等学校行事と連動し、系統的に生徒の進路意識を高める。</p> <p>⑦保護者対象進路説明会を充実させる。</p> <p>⑧志レポート・志望理由書を充実させる。</p>	<p>①進路指導マニュアル及び業務引継書を機能的に運用し、より充実したものに改良する。</p> <p>②進路指導に係る教職員間の連携、保護者との連携をより密にする。</p> <p>③学習方法、学部・学科、入試問題に係る知見を持つチューターを養成する。</p> <p>④自律的に幅広い体験学習が行えるよう、訪問可能企業及び同窓生リストを作成する。</p> <p>⑤体験活動・探究活動のまとめとしての志レポート・志望理由書の冊子を作成する。</p>	進路指導
〔衛生看護科・専攻科〕 看護師として希望する進路実現	<p>(1) 地域医療に貢献する使命感・倫理観を持った看護職者を育成する。</p> <p>①看護科行事を実施する。 ・教科看護のオリエンテーション、衛生看護科体験入学、継灯式(2学年全体行事)等</p> <p>②社会人講師を活用する。</p> <p>③地域の児童館での出前授業を実施する。</p> <p>④看護クラブの活動の活性化を図るとともに、生徒が主体的に活動できるようボランティア情報を適切に提供する。</p> <p>⑤看護職への就業意欲や学習意欲の維持させるための5年間の指導方法について検討する。</p> <p>(2) 看護実践能力を向上させる。</p> <p>①看護臨床実習及び臨地実習により看護実践能力を向上させる。 ・看護技術等の繰り返しの指導及び実習施設指導者との連携による指導 ・看護実践能力を向上させるための取組みの工夫集を作成する。 ・専攻科生徒から衛生看護科生徒への看護技術伝承授業を計画・実施する。</p>	<p>(1) 地域医療に貢献する使命感・倫理観を持った看護職者を育成する。</p> <p>①使命感・倫理観に関する修了時及び就職後の意識調査を実施する。</p> <p>②社会人講師を活用する。</p> <p>③地域の児童館での出前授業を実施する。</p> <p>④ボランティア活動を推進する。</p> <p>(2) 看護実践能力を向上させる。</p> <p>①看護の統合と実践に関わる教育内容の充実を図る。 ・臨地実習前の学校内での演習及びシミュレーション授業の充実を図る。 ・中国地方の衛生看護科専攻科設置校の状況を把握し、連携を図る。</p>	看護科

	<p>②授業力を向上させる。 ・研究授業年5回以上の実施及び授業評価アンケートによる分析</p> <p>③生徒の状況を的確に把握する。 ・面接指導を毎学期実施, 保護者懇談会, 三者懇談会を年2回程度実施, ・衛生看護科 専攻科生徒の合同進路情報交換会を行う。</p> <p>④看護師国家試験受験の心構えや学習方法を定着させる。 ・専攻科1年, 2年研修合宿, 専攻科2年次の個別指導, グループ学習, チューター制指導による面接</p>	<p>②授業力を向上させる。</p> <p>③生徒の状況を的確に把握する。</p> <p>④看護師国家試験受験の心構えや学習方法を定着させる。</p>	
〔体育科〕 専門を生かした 進路実現	<p>①進路相談による生徒の状況把握, 指導 ・担任や部活動顧問による面接指導を積極的に行う。 ・本校卒業生(講師や教育実習生)による進路相談を行う。</p> <p>②指導経験による意識の醸成 ・2年次のスポーツ総合演習において, 地域の中学校に対して出前授業を行う。 ・部活動ごとに中学生・小学生等への指導の場を増やす。</p>	<p>①進路相談による生徒の状況把握, 指導 ・担任や部活動顧問による面接指導を積極的に行う。(部活動は6月～7月で1回以上実施)</p> <p>②指導経験による意識の醸成 ・2年次のスポーツ総合演習において, 地域の中学校に対して出前授業を行う。 ・部活動ごとに中学生・小学生等への指導の場を増やす。(年間を通じて実施)</p>	体育科

3 地域から信頼される学校となる。

「安全・安心・信頼される学校」(広島県教育に関する大綱にかかる取組の推進)	<p>①教育相談体制のさらなる充実 ・教育相談室の機能を周知する。 ・職員研修を通じて生徒理解の視点を身に着ける。</p> <p>②定期的な安全点検, 日常点検の充実 ・安全で安心できる学校をつくるため, 教職員による学期に一回の安全点検を実施。緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。</p> <p>③生徒・保護者アンケートの実施 ・文武両道に打ち込み, より良い学校づくりがなされているか毎学期にアンケートを実施。勉強と部活動の両立と良い人間関係がより良い集団づくりを確立する。</p>	<p>①教育相談体制のさらなる充実 ・教育相談室便りを学期に1回発行する。 ・精神衛生講演会を開催する。 ・年4回の巡回相談を活用し, 専門機関との連携を図る。 ・職員研修会を開催する。</p> <p>②毎朝のSHRで教室の日常点検を実施。 ・掃除担当者による安全点検を学期に1回実施 ・全教職員が救急法を学び緊急時に備える。</p> <p>③毎朝のSHRで「生徒から一言(仮称)」と題して気付きを発表 ・生徒指導規定の充実 ・生徒指導研修の充実 ・生徒指導だよりの充実</p>	保健 生徒 指導
積極的な情報発信	①本校のホームページで1年以上更新されていないページをなくすために, 各部署と連携を取り積極的に更新する。	①本校のホームページのどのページも最低, 年1回以上更新する。そのために定期的に各部署との連携を密にする。	
入学希望者の増加	<p>①複数回実施しているオープンスクール, 学校説明会をさらに充実させていく。</p> <p>②学校説明会, 塾主催の説明会に積極的に参加しPR活動に務める。</p>	<p>①複数回実施しているオープンスクール, 学校説明会を維持・継続し充実させる。</p> <p>②学校説明会, 塾主催の説明会に積極的に参加しPR活動に務める。(オープンスクール等の参加中学生数延べ1,500人以上)</p>	総務
【業務改善】 生徒と向き合う時間を確保して, 教職員と生徒が「チーム MINAMI」として一丸となる。	授業, 授業準備・教材研究, 部活動, 個別指導, 週案作成に充てる時間を増加させる。そのために, 狙いや目的を明確にして業務内容を見直す。	<p>①生徒の自主的な活動を育成する。</p> <p>②スクールサポートスタッフと連携し, 業務分担を合理化する。</p> <p>②各分掌の会議の運営方法を見直す。組織や役割分担の改善をしたり, 効果的なマニュアルを作成したりする。</p> <p>③事業のスクラップ・アンド・ビルドを図る。</p>	各分掌

平成 30 年度学校関係者評価委員会名簿

校番	001	学校名	広島皆実高校	校長氏名	隠澤浩雄	全日制	本校
----	-----	-----	--------	------	------	-----	----

所属・役職等	氏名	備考
兵庫教育大学名誉教授 関西福祉大学特任教授	岩田 一彦	
元広島市都市整備局長 広島市南区選挙管理委員会委員	中本 信雄	
元広島皆実高等学校PTA顧問	京面 竜	
広島皆実高等学校PTA顧問	横田 裕	

※委員長及び学校評議員については、備考欄に記入する。

学校関係者評価委員に係る費用弁償年間見込み額

年間見込み額	積算根拠
<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; display: inline-block;">作成不要</div>	

※積算根拠には、学校関係者評価委員毎の費用弁償内訳額、開催(予定)日及び出席人数等詳しく記入してください。